

## 「8人制審判法について」の追加事項

平成23年9月17日 4種少年委員会評議員会資料及び議事録抜粋資料

○山梨県サッカー協会審判委員会より全少決勝大会に派遣参加した田中直樹氏や日本協会インストラクターなど1人審判について考察した内容について説明された。

1. あくまで通常のレフェリング（ポジション、視野の確保）の基本をベースにする。
2. 争点から離されないようにポジションをとる。
  - バックステップ、サイドステップなどを使いながら、プレーに巻き込まれないようなポジションをとる。
3. オフサイドの判定は、オフサイドラインをキープすることは難しいので、パスのスピード、選手の動きなどを予測して判定する。
  - ペナルティエリア内に入ることはあまりしないで判定する。入ってしまうとカウンターなどの攻守の切りかえに付いていけない場合がある。
4. 主審の視野からタッチライン、ゴールラインのインかアウトの判定をする。  
(補助審判に頼らず判定する。補助審判は交代手続きとベンチワーク、主審の見えなかった不正行為やその他の出来事を監視する。)
5. 補助審判は交代要員の用具を点検する。

### ●交代の手続き

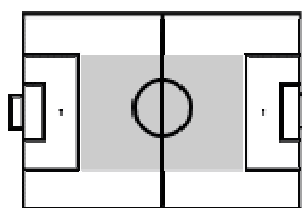
- (1) 交代して退く競技者は、交代ゾーンからフィールドの外に出る。
- (2) 交代要員は、交代ゾーンからフィールドに入り、競技者となる。
- (3) 交代は、ボールがインプレー中、アウトオブプレー中にかかわらず行うことができる。  
注) ただし、交代で退く競技者が負傷している場合は、主審の承認を得た上でどこからフィールドを離れてもよい。

(4) 交代について、主審、補助審判の承認を得る必要はない。

●ゴールキーパーの交代も、交代エリアで行う。(アウトオブプレー時)

●試合前用具のチェックは先発のメンバーのみが行い、交代要員のチェックは、交代するときとそのつど補助審判がチェックする。

6. 主審の動く範囲 (図のグレーで示された範囲)



- 常にカウンターを意識しながらポジションをとる。
- 対角線審判法やワンサイドでの判定法について委員会では特に指針はない。争点から離れないようにしながらも巻き込まれないようなポジションをとる。

### <質疑応答>

- 質問：交代要員が中の選手を呼んでの交代は、子どもがなかなかタイミング良く行うことが出来ないと思われるが、補助審判が交代のタイミングベンチに確認するなど関わった方がよいのでは？
- 答え：交代はベンチサイドのタイミングで行うことなので、補助審判はあくまでサポート的に関わること。ベンチからの指示を待ち、補助審判が交代に関わる事でゲーム内容が左右されることがあってならない。
- 質問：コーナーキック時のポジションどりは？
- 答え：ペナルティエリアにはあまり入らない。ゴールラインの判定はポジショニングした場所から判断してほしい。